

平成19年1月5日

各 位

株式会社アルプス技研
I R ・ 広 報 室

平成19年度 新年社長 年頭挨拶

株式会社アルプス技研（本社；神奈川県相模原市西橋本5-4-12、社長；池松邦彦）では、本年1月5日に年頭式を行いました。式におきまして、代表取締役社長池松邦彦が社員向けに年頭挨拶をいたしましたので、要旨をお知らせいたします。

記

「新年を迎えて一初心を忘るべからず」

皆さん 明けましておめでとうございます。

今年は第8次5ヵ年計画「新たな企業価値の創造」（事業価値・人間価値・社会価値の向上）総仕上げの年になりますが、昨年は技術者派遣業界において大きな再編があり、時代の潮流の変化は更に激しくなると思われます。その激動の時代を乗り切るためにも、今年はこの4年間の実績を踏まえて揺るぐことのない当社グループの方向性と強みを確立してまいります。

今年「人と組織の持続的成長モデルの確立」を第27期（2007年）方針として掲げます。人と組織の持続的成長によって、「活力ある企業風土」を復興することを目指します。当社の創業期や青年期の頃持っていた活力を、転換期を迎えた今、再び取り戻す必要があります。そのためには、一人ひとりの考え方も行動のあり方も見直していく必要があります。一人ひとりが全体の大きな目的の中で自分の役割を認識してその中で自律的に行動をしていくこと、またチームワーク中で創発的に智慧が創造されていくこと、そのような企業風土が作れば、人も組織も活力にあふれる大きな力を持てます。私自身も「初心を忘るべからず」を第8次5ヵ年計画の最終年度にあたり、今一度それを定めた理想や志の原点に立ち返り改めて努力をします。

この「初心を忘るべからず」とは室町時代の能役者である世阿弥の言葉ですが、著書『花鏡』の中で芸事の奥義として次のようなことを述べています。

「是非の初心を忘るべからず、時々の初心を忘るべからず、老後の初心を忘るべからず」

初心とは何かを始めたころの感動や純粋な気持ちではなく、「人生の成長の段階ごとに経験する芸の未熟さ」のことです。最初の句の意味は、若い時は未熟で失敗するが、その失敗をした初心を忘れなければ芸は上達するというので、次の句は、働き盛りから老年に至る前まで、その時々の初心を忘れなければ芸は上達するというものです。第三句は老人には老人にふさわしい芸を覚えることが老後の初心の芸であるという意味です。一生涯、向上心と不断の努力をしていけば、人間の成長はこれで終わりということはないということです。むろん、その時々遭遇する初心（つまり人格や能力の未熟さ）は年齢や立場によって違いますが、社長もベテラン社員もそして若い社員も、その時々初心を忘れずに、日に新たな気持ちを持って努力を積み重ねていくべきだと私は考えます。

皆さんとともに初心を忘れずに成長できれば、「活力ある企業風土」が復興できると信じております。

以 上